アイディアが出逢い交わって新たなアイディアを生み出す

東京歯科大学水道橋病院　相澤光博

1. 本研修に期待した事とその成果

本研修に参加した目的は「最先端の研究現場を見学すること」「現地 STAFF と英語で話すこと」であった．本プログラムには筆者が専門とする講義は少なく，そのため研究内容より日本とは異なる研究環境に興味があった．STANFORD 大学は多くの起業家を生み出していることから，その環境や，アメリカでは分業が徹底された「水平分業型」のベンチャーやファブレス(工場を持たない会社)が躍進していると聞いているからだ．現地起業家らの講演を直接聞くことでよく理解でき，とても興味深いものとなった．特に分業による専門性や自由度の高さを推し進める手法や，彼らのプレゼンテーションの技術は学ぶことが多いと感じられた．

しかし純粋な研究発表というよりは「売り込み」に近い印象があるのは否めない．それは自分のアイディアを企業に知ってもらう必要があるからだろう．研究発表というより営業に近いプレゼンで「特許」や「勝敗」などの言葉が飛び交うのには戸惑いがあった．日本よりも厳しい生存競争のある社会なのかもしれない．

また，現地 STAFF と話すべく，可能な限り英語で質問を行った．筆者は英語を母国語とする人と話せる機会が少ないため，数少ない機会であると考えたからだ．めちゃくちゃな英語を話していたと思うが，後から聞くと，思いのほか十分に通じていたとのことであった．そのことから英語はみんなが考えるほど敷居の高いものではなく，英語も経験を積めば上達することから，その機会を逃すべきでないと思う．

2. 日米の診療放射線技師の違い，診療放射線技師の国際的視野

この議題についてはグループ討議を行った．我々は STANFORD 大学病院や 3D ラボを見学し，日本の技師の技術レベルや知識レベルは，アメリカの技師とほとんど遜色ないであろうと感じられた．日本の技師は放射線技術すべてをカバーしており世界的にユニークであるが，日本独自の方法で成り立つ，つまり「ガラパゴス化」しているため，世界に対しての発信が少なく，世界に認知されていないのであろうとの意見がでた．

筆者は標準化規格委員に属しており，世界規格などの話題に近い立場にある．国際的な会議で世界標準規格に意見する際に根拠となる論文を提示する必要があるのだが，日本人の書いた英語論文が少ないため，意見が採用されない場面を多く見てきた．日本は高い知識や技術を持つが，残念なことに発言力は低いと言わざるを得ない．これは大きな損失だ．また高い技術も「ガラパゴス化」によって，世界との互換性を失って孤立して取り残されるだけでなく，外国から適応性と生存能力の高い技術に日本の技術は淘汰される危険にある．

それらを回避するため，海外への発表や論文投稿が重要となる．また，海外の知識や技術などの状況を知らなければならない．そのために学会の国際化を進め，我々自身が英語論文を世界に発信していき，外国の研究者を誘致して国外の状況を知るべきだろう．日本がリーダーシップをとれるほどにならなければならない．

3. 本研修での経験を今後の活動にどのように活かすか

日本全国から集まった仲間との交流で得るものが多かった．異なる専門分野でも，その研究内容やアイディアには見習うことが多く，お互い刺激を与えあった．異なるアイディアを持つ者同士が出会い交わって新たなアイディアを生み出す原動力となる，非常に貴重な経験となった．

本研修で，日本の技術力は世界と同等以上であることが理解できたが，問題は「ガラパゴス化」であり，我々は世界の状況を知り，自分らの技術を「世界に通用する方法」で発信しなければならない．筆者も国際会議への参加，論文投稿，標準化小委員会 WG などの活動を頑張ろうと決めた．さらに日本全国の仲間と協力しあえば，更なる放射線技術の発展ができるものと思う．

最後に，本研修に多大なるご尽力をいただいた STANFORD 大学の先生方，日本放射線技術学会の関係者の方々，仲間を引率された北里大学の佐藤先生，そしてともに過ごした仲間達に厚く御礼申し上げる．

Moseley 教授と J グループの記念撮影

中央の和服が筆者